

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～21回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 22～33回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 34～35回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 36～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	32回(64単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～7回目	ビジネス文書					
【前期】 8～13回目	ミュージックビジネス＃1-6					
【後期】 14～32回目	ミュージックビジネス＃7-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	外部ライブハウス実習				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～36回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【前期】 37～38回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 39～71回目	アンサンブルとは何か 課題曲⑤～⑧ アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 72～74回目	半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント東京ヴォーカルコース卒業。在学中に結成した自身のユニットで楽曲リリースやライブ活動後、卒業から1年でESPにてヴォーカルコース講師に就任。現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとして声優育成ボイストレーニングを始め、アーティストや俳優等のヴォイストレーニングを担当。また、自身の音楽スタジオも設立し、ヴォーカル講師として多数レッスンをしつつ経営にも携わっている。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛える為の筋カトレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	一年次の復習と修正。音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	一年次の復習と修正。高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合いをコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	【前期】17～19回目の内容を継続					
【後期】 25～28回目	一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものに身体を使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37回目	今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	SNSマネジメント/セルフプロデュースB		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ヴォーカリスト総合講座	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴16年。TVCM楽曲の作詞・作曲、メディア出演。有名アーティストのツアーサポートでホールツアーや大型フェスに出演。レコーディング参加及び指導実績多数。				
授業概要					
オリジナル曲または「ライブや音源で発表すること」を想定した楽曲を題材とし、ライブ出演や音源のリリースを目標に質を高めていく。自分の好きなものや思いを発信する機会を増やし、その楽しみを知る。人の心を動かすライブやエンターテインメントとは何かを学生自身が考え、それをクラス内でディスカッションし客観的な視野を持てるようにする。					
到達目標					
ライブやレコーディングで質の高いパフォーマンスを披露し、人を楽しませることができる。自身の歌や音楽で自分自身や他者を喜ばせることができる。自身の音楽性や思い・考えを世の中に発信することができる。また、アーティスト＝表現者としての楽しみや喜びを知る。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・授業概要及び目標の説明、各学生が求める内容や目指す方向性、ライブや音楽活動全般に関する悩み、現状の活動状況や経験値(オリジナルの有無・ストックが有る場合はオリジナル曲数・ライブ経験)及び好きなものや趣味など人間性のヒアリング ・各学生が影響を受けたアーティストの音源や映像を持ち寄り、その理由やどこに惹かれたのかを発表し、感想をクラス内でディスカッション ・レコーディング前に効果的なストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生が歌唱。				
【前期】 6～10回目	・セルフレコーディングに必要な機材の知識・録音方法・録音当日の喉ケア方法(自分に合った飲み物や本番から逆算した起床時間などを見つける手助け)や心構えの指導(マイクとの距離による違い、椅子座り・立ちで歌うメリットデメリットなど)、構成表の作成 ・セルフレコーディングの感想吸い上げ、サブスクやCDにして音源をリリースする方法各種の説明、ライブを想定した楽曲の選曲(クラス内で楽器サポートをする場合はパートの振り分け) ・ライブで演奏をするにあたっての課題の確認、ライブ前に行えるストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生がライブを想定したパフォーマンスを披露。ライブで観客を楽しませる・感動させる・人の心を動かす為に必要なものは何かを考え、現状のパフォーマンスの感想をクラス内でディスカッションし客観的な視野も学ぶ				
【前期】 11～15回目	MCの重要性とイベント趣旨や客層・会場の規模にあったMCの考え方や伝え方(感謝・自分なりのものの見方・楽曲の世界観に没頭しやすくさせる流れなど)、ステージに適さない言葉や伝え方(後ろ向きな言動や言い訳・身の丈に合わない偉そうな上からの物言い・人を不愉快にさせる態度など)、ライブに向けての事前準備の指導 ライブのゲネリハ、当日の流れ・心構え等の再確認 ライブホールを使用し、セルフプロデュースA・Bを前期に受講する学生が1曲(またはワンコーラス)ずつ披露				
【前期】 16～20回目	・イベントの振り返り、各自ライブの反省点、印象に残った出演者及び楽曲、その理由などをクラス内でディスカッション 今後の目標を再設定し、その為に今できることをリスト化。 各自が都度、録音及びパフォーマンスが出来る環境に機材セッティングし、前期授業内で題材とした楽曲を録音しながらパフォーマンス(7/21ライブ)に向き合った度合いと当日の様子も評価対象とする)				
【後期】 21～24回目	・授業概要及び目標の説明、各学生が求める内容や目指す方向性、ライブや音楽活動全般に関する悩み、現状の活動状況や経験値(オリジナルの有無・ストックが有る場合はオリジナル曲数・ライブ経験)及び好きなものや趣味など人間性のヒアリング。 ・各学生が影響を受けたアーティストの音源や映像を持ち寄り、その理由やどこに惹かれたのかを発表し、感想をクラス内でディスカッション ・レコーディング前に効果的なストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生が歌唱。音源として聴いた時に伝わりやすい表現方法やテクニックを学び、演奏で気付いた点や感想をクラス内でディスカッション(歌詞を用意) 楽曲にふさわしいBPM(弾き語りで曲中にテンポが変わる楽曲の場合は基準となる値)の決定・それに沿った演奏 ・セルフレコーディングに必要な機材の知識・録音方法・録音当日の喉ケア方法(自分に合った飲み物や本番から逆算した起床時間などを見つける手助け)や心構えの指導(マイクとの距離による違い、椅子座り・立ちで歌うメリットデメリットなど)、構成表の作成				
【後期】 25～29回目	・セルフレコーディングの感想吸い上げ、サブスクやCDにして音源をリリースする方法各種の説明、ライブを想定した楽曲の選曲(クラス内で楽器サポートをする場合はパートの振り分け)、ライブで演奏をするにあたっての課題の確認 ・ライブ前に行えるストレッチ・声の立ち上げ・相対音感トレーニングなどのウォーミングアップを行い、各学生がライブを想定したパフォーマンスを披露。ライブで観客を楽しませる・感動させる・人の心を動かす為に必要なものは何かを考え、現状のパフォーマンスの感想をクラス内でディスカッションし客観的な視野も学ぶ、視覚的に見て楽しめる所作や表情をつける ・MCの重要性とイベント趣旨や客層・会場の規模にあったMCの考え方や伝え方(感謝・自分なりのものの見方・楽曲の世界観に没頭しやすくさせる流れなど)、ステージに適さない言葉や伝え方(後ろ向きな言動や言い訳・身の丈に合わない偉そうな上からの物言い・人を不愉快にさせる態度など)、ライブに向けての事前準備の指導 ・ライブのゲネリハ、当日の流れ・心構え等の再確認 ・ライブホールを使用し、セルフプロデュースA・Bを前期に受講する学生が1曲(またはワンコーラス)ずつ披露				
【後期】 30～34回目	・イベントの振り返り、各自ライブの反省点、印象に残った出演者及び楽曲、その理由などをクラス内でディスカッション。試験対策 ・各自が都度、録音及びパフォーマンスが出来る環境に機材セッティングし、前期授業内で題材とした楽曲を録音しながらパフォーマンス(12/22ライブ)に向き合った度合いと当日の様子も評価対象とする) ・今後の目標を再設定し、その為に今できることをリスト化。次に目指すステージやリリースに向けて演奏やパフォーマンスの練習。				
【後期】 35～37回目	発表会(出来る学生は2曲でMCを挟む)				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルクリエイトⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルクリエイトⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験32年。1992年CDデビュー、1999年ボストンへ単身渡米、帰国後2004年ボイストレーナーとしても活動を開始。大手プロダクション所属アーティスト、声優、俳優らを数多く指導する。その他ラジオパーソナリティや楽曲提供も積極的に行っており、現在は音楽プロダクション(株)Mackie-i-Lands 代表取締役の顔も持つ。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	一年次にある程度絞り込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ボーシングの設定と変化に関して)					
【前期】 15～20回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 前期試験					
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)					
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 29～30回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 31～33回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて）					
【後期】 34～37回目	後期試験 総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
一年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音`子音`母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	・基本的なスケルトトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践					
【前期】 13～16回目	・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 17～18回目	・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 19回目	前期試験					
【後期】 20～23回目	・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 24～27回目	・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 28～30回目	・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
【後期】 31～34回目	学んだこと全ての確認、復習、修正					
【後期】 35回目	後期試験					
【後期】 36～37回目	学んだこと全ての確認、復習、修正の継続					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターヴォーカルパフォーマンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターヴォーカルパフォーマンスⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験16年 自身のバンドでギターヴォーカルと作詞作曲を担当。日本大学芸術学部演劇学科卒業後、ジャンルを問わずライブやディナーショーのサポート、レコーディング、MV出演などで活動。 海外ツアーの経験も多く、アメリカのロサンゼルスで1年半活動。 役者としてのキャリアもあり、曲の表現方法やステージでのあり方も指導する。					
授業概要						
・ミュージシャンに必要な様々な知識を学ぶ ・学園内イベントに向けての音作り、リハーサル ・上記に並行して、クリックを使用したリズムトレーニングも行う						
到達目標						
・ライブやレコーディングなど、音楽活動をする上で必要な知識、技術を身に着ける						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	業界基礎知識 ・事務所、レーベルプロダクション、契約 ・著作権、原盤権、演奏権					
【前期】 6～10回目	音源の制作・流通・配信 ・レコーディング～マスタリング ・CDプレス、配信方法					
【前期】 11～13回目	・応用的なエフェクターの使い方 ・ギタボギグに向けた課題曲の音作り、リハーサル。					
【前期】 14～16回目	・ライブのブッキング、ツアー ・アンサンブルフェスティバルに向けた課題曲の音作り。					
【前期】 17～20回目	・前期の復習。 ・前期試験に向けての課題。 ・前期試験					
【後期】 21～25回目	・物販、フライヤーの作り方 ・SNSでの発信方法(動画編集、画像作成、気を付けること)					
【後期】 26～30回目	・ミュージシャンとしての収益方法 ・確定申告の仕方					
【後期】 31～34回目	・曲の表現方法、応用的なステージング。 ・アンサンブルフェスティバル、歌系イベントに向けた課題曲の音作り、リハーサル。					
【後期】 35～37回目	・後期の復習。 ・後期試験に向けての課題。 ・後期試験 ・2年間の復習 ・卒業後について					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターヴォーカル課題曲Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ギターヴォーカル課題曲Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。					
授業概要						
ライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。						
到達目標						
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギターリストとしてのポテンシャルの向上を図る。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)					
【前期】 6～10回目	演奏楽曲決めと対策 ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・エフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・エフェクターが無い場合の対処法 ・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授					
【前期】 11～15回目	・ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析)					
【前期】 16～19回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う ・演奏楽曲に使われるメジャー＆マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復) ・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等					
【後期】 20～24回目	個人の後期での目標設定 ・自由曲の演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・再度確認すべき、客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性					
【後期】 25～28回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・後期発表で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習 ・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)					
【後期】 32～37回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と卒業後の対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ ・実際に講師の前で演奏してもらい、2年間で学んだものすべて(演奏や自己プロデュース能力等)を披露					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	楽器実技Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	楽器実技Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。 その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。					
授業概要						
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」を中心に、基礎力を徹底に身に着ける実技授業。						
到達目標						
1年次で学んだ基礎的知識、技術の習得の徹底。それをもとに実践的な応用力を習得するノウハウを身に付ける事を目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	メジャースケールとインターヴァル ・1年次に学んだインターヴァルの理解向上を、メジャースケールを使いトレーニング。・併せて指板上の音の理解向上。 ・複数ポジションでトレーニングにより指板上での音程、音名の理解を深める。					
【前期】 6～10回目	トライアドとインターヴァル ・スケール上で理解したインターヴァルを、4種類のトライアド上でも理解を深めるトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 11～15回目	テトラッドとインターヴァル ・トライアドで理解したインターヴァルを、テトラッドに広げてトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 16～21回目 (前期試験)	3種類のトリニックマイナースケール(ナチュラル、ハーモニック、メロディック) ・3種類のトリニックマイナースケールのインターヴァル、音名を確認しながらトレーニング。 ・複数ポジションでのトレーニング。					
【後期】 22～24回目	テンションコード ・コードトーンとテンション ・テンションの種類(ナチュラルテンション、オルタードテンションなど)。					
【後期】 25～28回目	チャーチモードとBluenote Scale ・各モードスケールのインターヴァルの理解・ダイアトリニックコードとの関係とアプローチの実践。 ・Blues進行及びBluenoteとBluenote Scaleについて					
【後期】 29～31回目	ドミナント7thスケール ・メジャートライアドを含むコードにに解決するドミナント7thスケール(Mixo-lydian Scale、Lydian b 7Scale) ・マイナートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Harmonic Minor Perfect 5th Below、AlfredScale) ・その他のドミナント7thスケール(whole tone scale、Harmonic minor perfect 5th below)					
【後期】 32～37回目 (後期試験)	アヴェイラブルノートスケール(今までの総まとめ) ・あらゆるコードに対するスケールの選び方、アプローチの方法。 ・循環コード、典型的なコードパターンを使った実践。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						